

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第10回頸城区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

○新潟県南部産業団地の現状について

○第2次総合公共交通計画における令和5年度バス路線の再編について

(2) 協議事項（公開）

○活動団体との意見交換から見えてきた地域の課題について

(3) その他（公開）

○令和4年度地域活動支援事業活動報告会について

○他区の「地域活性化の方向性」の提供について

3 開催日時

令和4年12月21日（水）午後6時30分から午後8時10分まで

4 開催場所

頸城コミュニティプラザ 2階 203会議室

5 傍聴人の数

2名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：上村閨一（会長）、笠原昇治（副会長）、佐藤学、新保哲男、橋本春美、西巻肇、船木貴幸、望月博、山本誠信、（委員13人中9人出席）

・事務局：頸城区総合事務所岡村所長、本間次長、井部市民生活・福祉グループ長、総務・地域振興グループ渡辺班長、市川主査

8 発言の内容

【本間次長】

・会議の開催を宣言

【上村会長】

- ・挨拶

【本間次長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・会議録の確認：望月委員、山本委員に依頼

【上村会長】

次第3 報告事項「(1)新潟県南部産業団地の現状について」入る。産業立地課に説明願う。

【小山副課長】

- ・挨拶

【塩練係長】

- ・説明

【上村会長】

何か質問はあるか。

【新保委員】

南川地区の町内会長に説明したとのことだが、各町内会長からどのような意見が出たのか教えてもらいたい。

【小山副課長】

過去からの要望で、地元の人が歩いて行ける商業施設の誘致をしてほしいと意見が出た。

【新保委員】

これまで商業施設を誘致する方針であった。地元の方から太陽誘電(株)が駐車場用地として取得することに何か意見はなかったか。

【塩練係長】

説明の時には正式契約ではなかったため企業名は伝えず、駐車場用地に使用したいという企業の意向のみを説明した。また、県は6.1ヘクタールの用地全てを商業施設として誘致することは難しいという考えであることも説明した。それに対し町内会長からは、「地元としては商業施設を望んでいる。企業に4.7ヘクタール売却すると1.4ヘクタール残るが、1.4ヘクタールの面積でスーパーが建つのか」という質問

があった。

県内外の商業施設の関連業者にヒアリングを行い、1.4ヘクタールあれば、スーパーに加えて100円ショップのような小規模な店舗が建設可能な規模であると確認したことを説明し、理解をいただいた。

【新保委員】

了解した。

【上村会長】

他に質問はないか。

- ・意見なし

以上で、報告事項「(1) 新潟県南部産業団地の現状について」を終了する。

次に、次第3 報告事項「(2) 第2次総合公共交通計画における令和5年度バス路線の再編について」に入る。事務局に説明願う。

【渡辺班長】

- ・事務局からの説明

【上村会長】

何か質問はないか。

- ・質問なし

以上で、報告事項「(2) 第2次総合公共交通計画における令和5年度バス路線の再編について」を終了する。

次に、次第4 協議事項「(1) 活動団体との意見交換から見えてきた地域の課題について」に入る。事務局に説明願う。

【渡辺班長】

- ・くびきまちづくり通信への掲載について説明

【上村会長】

くびきまちづくり通信へ掲載することに対し、各活動団体と今後どのような形で取り組んでいくか意見を求める。

【西巻委員】

各活動団体は何団体を想定しているのか。くびきまちづくり通信の紙面も常に空いているわけではない。記事が多くなれば、掲載できない団体も出てくるのではないか。

【渡辺班長】

団体の数は決めていない。団体は、(仮称) 地域独自の予算で提案いただいた団体や地域活動支援事業の提案団体が考えられる。その他にも地域で活動している団体があれば、記事を掲載することを検討していきたい。

西巻委員が心配されているように、掲載を希望する記事が多かった場合は、くびき振興会と調整を取りながら記事を作成する。記事の編集やくびき振興会との調整を「誰が」「どのような流れ」で進めるか委員で検討してほしい。

【上村会長】

くびき振興会の紙面を少し分けていただくので、最初はお知らせ程度になると思う。少なくとも令和5年度は4つの大きな柱で進めていくので、その都度どの記事を掲載するのかを、事務局や4つの柱の担当委員などで調整しながら作成することになると考えている。

また、事務局や活動団体ではなく、活動団体を把握している3～4名の委員から進めてもらいたいと考えている。

他にあるか。

【笠原副会長】

先ほど会長の挨拶にもあったが、これまでは活動団体が提案した地域活動支援事業の審査を地域協議会が行っていた。今後は地域協議会として、総合事務所や地域と一体となって活動を進めていくことになるので、地域協議会の委員は各団体の方向性を理解していかないと、どう進めていくか分からなくなる。

【上村会長】

それでは事務局がくびき振興会と打ち合わせをした経緯を含め、委員の意見をすり合わせながら、2月号から掲載するというのを承認いただきたい。

【望月委員】

くびきまちづくり通信に掲載したとしても本当に小さい記事になる。それよりも、地域協議会だよりを頻繁に発行した方がよいのではないか。事務局任せにせず、数人の地域協議会委員から担当してもらい、地域協議会だよりの発行回数を増やすのがよいと思う。

委員は大変だが地域を活性化するようたよりを作らなければいけないと思う。毎月発行しなくてもよいが、必要に応じて発行するというのを同時に考えていけばよいと思う。

【上村会長】

他に意見はないか。

【船木委員】

くびきまちづくり通信に記事を掲載する回数は、各団体にヒアリングしてみないと分からない。

【上村会長】

他に意見はないか。

【滝本委員】

これからの情報発信に紙媒体が必要か。イベント告知するだけなら今ある媒体を上手く使えばよい。もう少し効率のよい発信に変更した方がいいと思う。編集などで事務局に迷惑がかかるならやるべきでない。

【上村会長】

他に意見はないか。

先般、町内会長会議でこれまでの地域協議会の活動を説明した。その際、(仮称)地域独自の予算の関係で「予算要求する金額に上限はあるのか」という質問があり、岡村所長が「上限はない」と回答した。また、その前の町内会長協議会の理事会では、ビジターセンターや大池周辺の活動について意見があった。

このようなやりとりを伝えることが大事だと思うし、前回の地域協議会でくびきまちづくり通信の紙面を借りて、活動団体の情報発信を進めようとまとめ、事務局がくびき振興会と協議し、くびき振興会から理解いただいたところだ。

望月委員の発言にもあったように、事務局だけに任せるのではなく、4本柱の担当委員に正・副会長も加わり進めていきたい。

事務局に確認だが、このような進め方でよいか。

【本間次長】

委員の意見を伺うとくびきまちづくり通信を使った方がいい記事、地域協議会だよりを使った方がいい記事の2通りが考えられる。そのいずれにも委員に関わっていただきたいと思うので、その辺を整理しながら2月号に向けて協議してはどうか。

【上村会長】

了解した。

それでは次に進む。事務局に説明願う。

【渡辺班長】

- ・資料²「この課題を踏まえ地域協議会としては、どう進めていくか」について説明

【上村会長】

まずは地域協議会としては、どう進めていくか、率直な意見を求める。

【望月委員】

地域協議会で少人数のメンバーを構成して進めていかないと、上手くいかないと思う。

【船木委員】

社会福祉協議会の懇談会に参加した頸城区の方に地域協議会を知っているか尋ねたところ、知らないし、どんな活動をしているかも分からないと言われた。

今後、総合事務所、地域協議会が先導し活動を続けることになると思うが、そこに区民の方も参加してもらおうとよいと思う。これまで地域活動支援事業を提案してきた団体は頸城区をより良くするという考えがあると思うので、自分の団体の活動だけでなく頸城区のまちづくりに関わってもらってはどうか。また、それを一元的に管理できる組織が必要だと思う。

【上村会長】

他に意見はないか。

【新保委員】

地域協議会としてどう進めていくかの前に、これまでの委員の活動の中で、地域協議会が上から目線で話しているような印象を与えてしまったので、その溝を埋めるためにも各活動団体の活動に地域協議会委員が入り、汗水を流して一緒に活動し、その上で意見交換をするようにしなければならない。それを進めるには、まず令和5年度は活動団体の中に入り共に活動することに力を入れ、令和6年度は意見交換を行うようにした方がいいのではないか。

【上村会長】

まさにその通りだと思う。頸城区の将来像を実現するには、頸城区の皆と協力して、参加者を増やしていかなければならない。それと活動団体を上から目線で見ないという話があった。これまで地域協議会委員は地域活動支援事業の審査を行い、採択となった団体が提案どおりに活動を実施しているか確認することが大きな仕事だったと思う。

今後は地域協議会委員も団体と一緒にあって地域づくりをするように、方向転換していかなければいけないと思う。

【笠原副会長】

地域協議会委員は団体のイベントなどにあまり行っていないのが現状ではないか。地域に出向いていかなければ、「地域協議会は何をやっているのか分からない」と言われてしまう。進んで各団体の中に入り込み手伝いなどをしていかないといけないと思う。

【上村会長】

他に意見はないか。

今までの意見を「①地域協議会としてどう進めていくか」にまとめるにあたり、事務局はどのように考えるか。

【本間次長】

委員の皆さんは、「とにかく地域に入り込むことが1番大事ではないか」という意見だと思う。地域に入り込む方法として、令和5年度以降に何をするのか検討してはどうか。

【上村会長】

今の意見を踏まえながら次の「②具体的な時期、誰に対し」に移る。

これについては、今すぐ考えるのは難しいため、各自が自宅で考え、期限を区切って事務局に提出することでどうか。

- ・全委員、事務局了承

【渡辺班長】

- ・各自の考えを資料²に記入し、令和5年1月6日（金）までに事務局へ提出するよう依頼

【上村会長】

以上で、協議事項「(1)活動団体との意見交換から見えてきた地域の課題について」を終了する。

その他に入る。

【本間次長】

- ・令和4年度地域活動支援事業活動報告会について説明

日時：令和5年3月23日（木）午後6時を予定

- ・他区の「地域活性化の方向性」の提供について説明
- ・次回の地域協議会の日程について提案

令和5年1月18日（水）午後6時30分から開催

【上村会長】

他にないか。

- ・なしの声
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

頸城区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-530-2311（内線212）

E-mail:kubiki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。